

3 シンテッポウユリのセル成型育苗

ねらいと成果

シンテッポウユリは播種から定植までの育苗期間が3～4か月に及ぶため、ハウス内の地床で育苗するのが一般的である。近年育苗中にフザリウム菌による腐敗が増加しつつあり、またマルチ栽培では植え付けに時間がかかりすぎるなど育苗法の改善が求められている。そこで、健苗化、定植の省力化を図るためセル成型育苗法を検討した結果、136及び200穴セルの12月中下旬播種で、対照の箱育苗と遜色のない生育、切り花形質が得られることが判明した。

内容

3種類のセル容器に播種期を2段階に分け、セルの種類と播種時期が苗の生育に及ぼす影響について検討した。地床育苗に準じて育苗箱(45×36×6cm)で育てた苗を対照とした。得られた苗は4月17日に定植を行い、切り花形質への影響も調査した。

セル成型育苗では、セルの種類が大きいほど、また播種期が早いほど葉数が進み、苗重が重くなる傾向を示した。箱育苗と同程度の定植適期苗とされる4枚以上の葉数に達したのは136及び200穴であった。しかし、箱育苗と同程度の生体重が得られたのは136穴・12月10日播種のみであった(図)。

定植時に箱育苗の苗は植え痛みがみられ、活着に1週間程度要したが、セル苗は定植後速やかな生育を示し、初期抽だいは認められなかった。

採花率はセル成型育苗で115～119%を示し、箱育苗の95%に対して明らかに向上した。しかし、採花日はセルの種類が小さくなるにつれ、また播種期が遅くなるにつれ遅れる傾向が認められた。箱育苗に比べ136穴では1～6日早まり、200穴では同程度、288穴では5～8日遅れた。切り花長は136及び200穴では箱育苗と同程度か長いものが得られたが、288穴では90cm以下の割合が高くなった(表)。

今後の方針

地床育苗に変わる育苗法として普及が見込まれるが、苗重がやや小さいので質を高める施肥法や用土の検討を行う予定である。

和田 修(中央農技・園芸部)

表 セル成型苗による採花率と草丈別切り花率

セルの種類 (穴)	播種時期 (月・日)	採花率* (%)	採花日 (月・日)	草丈別切り花率		
				<90 cm	~110 cm	110< cm
136	12.10	119	8.6	8	49	43
	12.25	118	8.12	13	51	36
200	12.10	116	8.13	5	36	59
	12.25	116	8.13	16	55	29
288	12.10	116	8.18	36	32	32
	12.25	115	8.21	53	26	21
箱育苗	12.25	95	8.13	14	54	32

* 採花率は200株定植本数に対する切り花本数の率

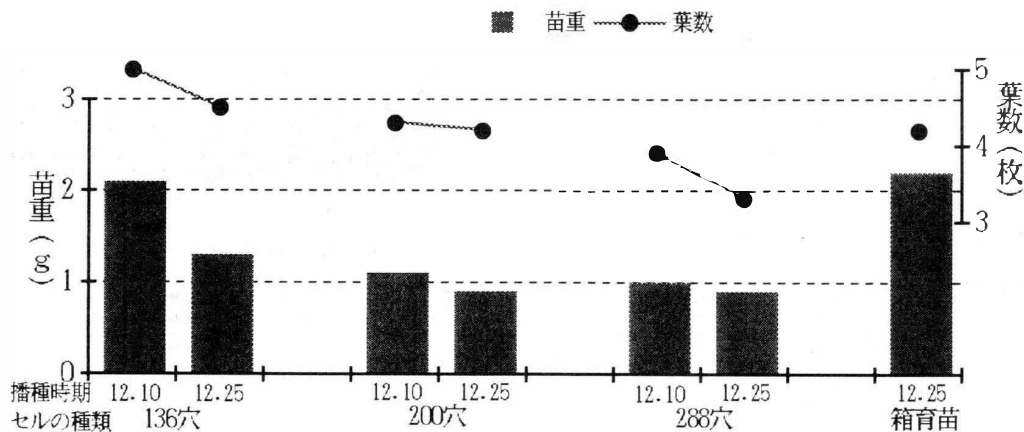


図 セルの種類と播種時期が生育に及ぼす影響